

令和2年度 学校評価（最終）について

1 職員による評価

(2) 対 象 : 本校教職員70人（管理職、訪問教育非常勤教師、特別支援学校看護師を除く）

(2) 実施期間 : 令和2年12月25日（水）～令和3年1月8日（水）

(3) 内 容 : 15の評価項目（7のカテゴリー）
 ※ カテゴリーは、学校経営方針との関連で設定
 ※ 評価項目は、昨年度の結果を受けて今年度重点取組事項とした項目「重点」、その他「通常」で構成

(4) 評価方法

ア 4段階評価「A・B・C・D」（表1、表2参照）

イ 評価（判断）が困難な項目に関しては、「無回答：N」とする。

表1 評価基準表①

評価	評 価 基 準
A	<p>（実施「済」、かつ、ねらい「十分達成」）</p> <p>○ 予定された取組が、計画的に（年間の分掌計画に掲げたとおり）実施され、ねらいの80%以上が達成されている。</p>
B	<p>（実施「済」、かつ、ねらい「まあまあ達成」）</p> <p>○ 予定された取組が、計画的に（年間の分掌計画に掲げたとおり）実施され、ねらいの50%以上80%未満が達成されている。</p> <p>（実施：「未」、かつ、計画性「十分」）</p> <p>○ 今後、実施予定の取組（現段階では計画進行中のため未実施である）に関する計画が、現時点で年度初めの分掌計画に基づき、係での検討や職員への提案・周知がなされ、進められている。</p>
C	<p>（実施：「済」、かつ、ねらい「やや未達成」）</p> <p>○ 予定された取組が、計画的に（年間の分掌計画に掲げたとおり）実施され、ねらいの20%以上50%未満が達成されている。</p> <p>（実施：「未」、かつ、計画性「やや十分」）</p> <p>○ 今後、実施予定の取組（現段階では計画進行中のため未実施である）に関する計画が、現時点で進められつつある。</p>
D	<p>（実施：「済」、かつ、ねらい「未達成」）</p> <p>○ 予定された取組が、計画的に（年間の分掌計画に掲げたとおり）実施され、現時点でねらいが19%未満達成されている。</p> <p>○ 予定された取組が、実施時期を逃して未実施の状況にある。</p> <p>（実施：「未」、かつ、計画性「不十分」）</p> <p>○ 重点取組事項の具体的な取組が、校務分掌の係業務として年間計画（校務分掌報告会資料）に反映されていない。（年度当初から計画されていない。）</p> <p>○ 大幅な改善が必要である。</p>
N	<p>○ 実施状況や計画の進捗がよく「分からない」若しくは、上記の判断ができない場合は「N」と回答する。 無回答。</p>

表2 評価基準表②

有← 実施の有無 →無

	実施 （実施済み～取組進行中）
達成↑ ねらい達成状況↓ 未達成	A
80%～100% 達成	A
50%～80%未満 達成	B
20%～50%未満 達成	C
20%未満 達成	D

(5) 集計結果について

(ア) 回収率：100% (70人)

(イ) 各学部の評価平均

	最終	中間
全体	3.46	3.42
小学部	3.45	3.53
中学部	3.50	3.41
高等部	3.46	3.32
事務部	3.41	3.61

(ウ) 項目ごとの集計結果

			中間	最終
教育公務員としての責任・自覚 3.50	① (通常)	・人権ヒヤリハットについて、事例の振り返りや相互チェックを定期的に行い、教職員としての適切な言動ができるように心掛けているか？	3.51	3.46↓
	② (通常)	・「生徒指導等に当たっての自己チェックリスト」等を使うなどして、服務規律の厳正確保に努めているか？	3.51	3.54↑
業務改善への取組 3.27	③ (重点)	・適正な勤務時間（定時退庁日、時間外勤務月45時間以内）を意識し、やるべきことに優先順位を付け、計画的に業務を行うことができているか？	3.40	3.28↓
	④ (重点)	・教材研究の時間を確保し、データ整理や教材の共有化などの工夫を行いながら、効率的な授業準備がなされているか？	3.25	3.27→
安心して学べる教育環境の整備・改善 3.6	⑤ (通常)	・ヒヤリハット事例を素早く報告（情報共有）し、再発防止のための対策や改善策に活用されているか？	3.70	3.73↑
	⑥ (重点)	・教室や学習の場、校外の施設などの整備・点検を行い、省エネを意識し、教育環境の改善に努めているか？	3.49	3.47→
地域や社会のニーズをとらえた教育活動 3.44	⑦ (重点)	・児童生徒の可能性を拓く取組や、進路先からの課題による指導内容・指導方法の見直しを行っているか？	3.27	3.40↑
	⑧ (重点)	・児童生徒の学習場面等において自己選択や自己解決につながる活動を行っているか？	3.35	3.48↑
一人一人の教育的ニーズに応える指導の充実 3.3	⑨ (重点)	・目指す資質、能力を明らかにし、個別の指導計画を活用した授業づくりを行っているか？	3.34	3.36→
	⑩ (重点)	・地域の人的・物的資源を活用しながら、主体的で対話的で深い学びを目指して指導方法、学習評価の研究・工夫をしているか？	3.12	3.24↑
本校における教育活動の理解・啓発 3.52	⑪ (通常)	・センター的機能の充実に図るための取組（巡回相談、学校見学会、離島研修会）を企画・運営し、本校の教育活動の理解・啓発に努めているか？	3.50	3.65↑
	⑫ (重点)	・ホームページの定期的な更新を行い本校の活動を伝えることができているか？	3.37	3.39→
家庭・関係者（機関）等との協力・連携 3.55	⑬ (重点)	・就学相談やケース会、教育相談等を通して学校間や学部間の連携や学びの連続性につながる取組を行っているか？	3.53	3.60↑
	⑭ (重点)	・児童生徒の健康の保持・増進（食に関する、歯磨き指導、運動の習慣化等）のための取組を家庭と連携して行っているか？	3.41	3.49↑
	⑮ (通常)	・児童生徒の状態について家庭や関係機関と共通理解を図り組織的な生徒指導が行われているか？	3.61	3.55↓

(エ) 学校経営方針との比較 () は中間評価

項目	評価
(1) 公教育の基盤に立ち、全人教育の重要性と教育公務員としての責任を自覚し、業務改善、教職員相互の信頼と協力により、教育目標の達成を図る。	3. 50 (3. 51)
(2) 保健、衛生及び安全管理の徹底を図り、児童生徒が安心して学べる教育環境を整備する。	3. 60 (3. 59)
(3) 新学習指導要領における育成を目指す「資質・能力」の3つの柱を踏まえ、地域や社会のニーズをとらえた一貫性のある教育課程の編成に努める。	3. 44 (3. 31)
(4) 児童生徒の的確な実態把握と分析による適切な個別の指導計画を作成し、一人一人の教育的ニーズに応える指導を行う。	3. 33 (3. 23)
(5) 家庭や児童福祉施設、近隣の幼・保・小・中・高等学校、地域社会及び関係機関との協力・連携を密にし、教育効果の向上と指導・支援の共有化を図る。	3. 55 (3. 51)
(6) 大島地区唯一の特別支援学校として、インクルーシブ教育システムの構築に向け、地区内における特別支援教育のセンター的機能を充実させるとともに、本校の教育活動の理解・啓発に努める。	3. 52 (3. 43)

(オ) 今年度重点的に取り組む事項から

重点取組事項	評価
(1) 児童生徒の能力や特性等を踏まえた適切な教育の追究 ⑨⑩	3. 3 (3. 23)
(2) 安心・安全で働きやすい教育環境・職場環境の改善・維持 ③④⑤⑥	3. 43 (3. 46)
(3) 児童生徒自らの気付き・学び・解決を促す進路指導の充実 ⑦⑧	3. 44 (3. 31)
(4) 児童生徒の健康維持・健康管理の推進 ⑭⑮	3. 52 (3. 51)
(5) 特別支援教育のセンター的機能の充実 ⑪⑫⑬	3. 55 (3. 46)

2 保護者・学園職員による評価

- (1) 対象：本校の保護者110人(戸)、学園職員7人
- (2) 実施期間：令和2年12月25日(水)～令和3年1月15日(金)
- (3) 内容：11の評価項目
- (4) 評価方法：4段階評価「4・3・2・1」と「0」

「4：そう思う」「3：ややそう思う」「2：あまりそう思わない」 「1：そう思わない」「0：分からない(見えてこない)」
--

(5) 集計結果

(ア) 回収率：94.8%(111人) 昨年度91.3%

学校評価の回収率がとても高い。このことから保護者の皆様の学校への思いや期待、関心の高さを感じることができた学校評価になった。御協力に感謝いたします。

(イ) 項目ごとの集計結果について

昨年度より評価が低くなった項目がいくつかあるが、全体的に高い評価をいただいた。要努力度(2, 1の評価の割合)が高い順に行くと「個に応じた指導」、「生徒指導」、「相談への対応」の項目で今後、対策や改善を図っていくことが必要である。また、「地域とのふれあい、社会参加」の項目については「わからない」との回答が多く、新型コロナウイルス感染症の影響が出ていると感じる。

令和2年度 学校評価（保護者・学園）結果

＜評価基準＞ 4：そう思う 3：ややそう思う 2：あまりそう思わない 1：そう思わない 0：分からない（見えてこない）

	評価項目	評価の視点	R1	R2	評価基準（内訳）					計	要努力度 (2,1の割合)
					4	3	2	1	0		
1	安全な教育環境	大島養護学校(以下、学校)は、児童生徒の健康安全や事故防止に十分配慮して、教育活動を行っていますか。	3.81	3.76	86	19	2	1	3	111	2.7%
2	整理整頓設備充実	学校は、物品が整理整頓され、施設設備が充実していますか。	3.65	3.60	74	29	3	3	2	111	5.4%
3	生徒指導	学校は、児童生徒が明るく生き生きと学校生活を送れるように適切な生徒指導等を行っていますか。	3.70	3.61	75	27	5	2	2	111	6.3%
4	個に応じた指導	学校は、児童生徒一人一人の状態や特性を理解し、生きる力（確かな力、豊かな心、健やかな体）を身に付けさせるために、個に応じた指導を行っていますか。	3.62	3.59	75	24	7	2	3	111	8.1%
5	進路指導	学校は、児童生徒の発達段階や保護者の願いを理解して、適切な進路指導を行っていますか。	3.58	3.61	73	29	5	1	3	111	5.4%
6	個別の教育支援計画及び指導計画	学校は、個別の教育支援計画や個別の指導計画において、保護者や学園担当者と連携して、具体的に分かりやすいものを作成していますか。	3.79	3.67	80	21	4	2	4	111	5.4%
7	理解・啓発	学校は、PTA総会や学級PTAなどで、教育目標や教育内容を分かりやすく伝えていきますか。	3.68	3.62	73	28	5	1	4	111	5.4%
8	児童生徒の情報の提供	学校は、児童生徒の日頃の学習を学級通信や連絡帳などで適切に分かりやすく伝えていきますか。	3.68	3.72	84	20	4	1	2	111	4.5%
9	相談への対応	学校は、保護者や学園担当者が児童生徒のことで連絡や相談をしたときに適切な対応を行っていますか。	3.69	3.66	82	21	5	2	1	111	6.3%
10	地域とのふれあい・社会参加	学校は、児童生徒が地域や社会の中で豊かに生活できるような機会作りを努めていますか。	3.55	3.53	61	36	3	2	9	111	4.5%
11	学校行事などの情報提供	学校は、学校行事や教育活動の様子をホームページや学部だより、PTA新聞等で適切に情報を提供していますか。	3.79	3.65	77	25	3	2	4	111	4.5%

3 分 析

(1) 教職員による自己評価の結果について

課題項目、良好項目を次のように設定する。

3.00未満・・・課題項目 該当なし 3.30以上・・・良好項目 12項目/15項目

ア 評価が3.00未満の項目

※ 課題項目のため具体的な対応が必要な項目と考える。 → ※今回は、該当項目なし

イ 評価が3.00～3.30の項目（もしくはCの評価が3人以上）

※ 良好項目を目指す必要があると考える。

- ③ 適正な勤務時間（定時退庁日，時間外勤務月45時間以内）を意識し，やるべきことに優先順位を付け，計画的に業務を行うことができているか？
- ④ 教材研究の時間を確保し，データ整理や教材の共有化などの工夫を行いながら，効率的な授業準備がなされているか？
- ⑩ 地域の人的・物的資源を活用しながら，主体的で対話的で深い学びを目指して指導方法，学習評価の研究・工夫をしているか？
- ⑥ 教室や学習の場，校外の施設などの整備・点検を行い，省エネを意識し，教育環境の改善に努めているか？
- ⑫ ホームページの定期的な更新を行い本校の活動を伝えることはできているか？

(2) 保護者・学園職員による評価の結果について

概ね，良好な評価をいただいたが，項目を細かく見ていると「2 あまりそう思わない」，「1 そう思わない」の評価が全体の5%を超えている要努力項目がいくつかある。（「2」「1」の評価の割合を要努力度という。以下，要努力度と標記）特に「個に応じた指導」「生徒指導」「相談への対応について」について要努力度の割合が高い結果となった。職員の特別支援教育における専門性だけでなく，教育相談についても今後の課題として挙げられた。

また，「地域とのふれあい，社会参加」については「わからない」とした回答が多くあった。実際，交流や校外学習が中止になったり，直接ではなく，間接的な交流（手紙やビデオレター，リモート）に変わったことで，保護者に伝わりにくい部分があったり，学習の成果を家庭や地域で生かしていくことが，例年に比べて難しかったりしたのでないかと考えられる。

その他，自由記述の欄では，支援教室（喜界，徳之島，沖永良部）との連携について保護者から御意見をいただいた。今年度，リモートなどICT機器を使っただけの会議や交流を数多く行った。この経験を生かして支援教室の連携を深めていけるのではないかと考えられる。

(3) 来年度にむけた具体策等

○ 業務改善への取組 ③④

業務改善の目指すところは，教育の質の維持・向上。複雑，多様化している課題を業務改善することで，質の高い教育を持続，発展させていくことである。

学校としての取組（1Action）として効率的な授業準備を設定した。教材の共有化，データ整理など教材や教具（自作も含めて）などグループウェアに保存して，みんながいつでも使えるように整理を行うようにする。また，校務パソコン内も日頃からデータの整理を行い，必要な時にデータをすぐ見付けることができるように心掛けていく。

個人としての取組（1 t r y）として仕事の優先順位を付ける，時間外勤務時間45時間以内の意識（1日あたり2時間15分）などそれぞれで業務改善に取り組んでいく。

また，今年度新型コロナウイルス感染症対策のため，行事の変更などが行われた。今年度の反省を生かしながら引き続き行事の精選や見直しを行っていく。

○ 地域の人的・物的資源の活用，主体的，対話的，深い学び ⑩

今年度はテーマ研修で「主体的で対話的で深い学びの実現」に向けて取り組んできたことで理解が深まってきた。来年度はさらに理解したことを実践できるようにしていく。

地域の人的・物的資源の活用については，今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため，交流学习や校外学習の中止や変更があり計画通り進まなかった。その中で内容の精選を図り，それぞれの係で工夫をして実践できた。今年度実践した中で課題に挙げたことを改善しながら資源の活用をしていきたい。来年度も計画の変更等が考えられるが，今年度の経験を生かして来年度につなげていきたい。

○ 省エネを意識した教育環境の改善 ⑥

重点取組事項に挙げたことで、全職員が意識して取り組むことができた。夏場のエアコンや冬場の照明、印刷紙など常に意識しながら改善に努めている職員も大勢いるので、今後お互いに声を掛け合いながら省エネに取り組んでいきたい。来年度はSDGsの考えのもと子供たちとともに環境問題等について考えていくきっかけになればと考えている。

○ ホームページについて ⑫

ホームページについてはここ2年ぐらいでだいぶ更新されている。ただ、更新したことを知らなかったり、ホームページ自体の存在が知られていなかったりするるので、更新のたびにGWにアップするなどしていきたい。そのことで全職員がホームページについて関心をもち、また内容についてもよりよいものになると考えられる。

ホームページに全職員が携われるように、作成の仕方を全職員で共通理解したり、研修や手引きについても考えたりしていく。

○ 専門性とコミュニケーション能力の向上 (保)

保護者の評価から、「個に応じた指導」、「生徒指導」において、要努力度の値が高かった。個別の指導計画や個別の教育支援計画等を立てる際や、個に応じた指導するにあたり生徒指導や進路指導など専門的な知識を必要とする。これまでも職員研修や、自主研修等で研鑽を積み専門的な知識の獲得に努めてきている。職員研修においては更に、テーマや目的を絞りながら取り組めるように計画していく。また、教育相談においてもその技能を高めつつ職員のコミュニケーション能力の向上を図っていく。

○ その他

今年度は沖永良部高校にも本校の支援教室が開級し、これまで以上に連携について課題が挙げられている。本校と支援教室だけでなく支援教室同士の連携も重要になってきている。今年度、新型コロナウイルス対策で行ったリモートを使っての交流など自由に行き来できない状況の中でどのように交流が図れ、連携していくかを考えていきたい。

全体的に高い評価になっているが、それぞれの項目で挙げられている課題を意識しながら、この良好な状況を引き続き保つことができるようにしていきたい。今、自分ができること(1 t r y)を業務改善だけでなく、教育活動全体を通して遂行していけるように今後も努めていく。